

ゆいのき ミニ

速報版 30

R2.12.3

室田和宏

「この本すっごくおもしろかったよ」

朝一番でこんな声を掛けてくれる子がいるのですから、学校というところはなんて素敵なおとこな
のでしょう。1日をとても良い気持ちでスタートし、おもわず笑顔になってしまいます。どんな本な
んだらう?とても気になって立ち読みさせてもらいました。3年生の読書リレーで回っている、「小
さいおうち」(バージニア・リー・パーソン/作・絵)という絵本でした。

さらに気になって教室に行き、ファイルを見せてもらいました。こんな感想を発見しました。「小
さいおうちは都会に行きたいと思っていたけれど、田舎に
もどれて・・・城山地区は自然がいっぱいなのでこの地区
を大切にしていきたいです。」声を掛けてくれた男の子の
おかげで、1冊の本に出会い、豊かな気持ちになることが
できました。城央小の子たちに是非読んでほしい、「おす
すめの1冊」が増えました。黄色いバッグがトレードマ
ークの「読書リレー」家族でともに楽しんでもいただくと幸
いです。11月は読書月間でした。図書委員会による読み
聞かせやビブリオバトルが図書館だよりで紹介されている
のでご覧ください。



学びを止めずに授業研究会！

前号では人権週間の研究授業を紹介しました。今回は1
日に実施された道徳の授業研究会の様子をお知らせしま
す。本校では「互いに認め合い、主体的に活動する児童の
育成」～自己を見つめ、他者と関わることを通して～をテ
ーマに研究を進めています。今回、授業を提供してくれた
のは2年1組の子どもたちと黒川真由美教諭です。ものさしを折ってしまった事を、友達のせいにして
しまう“のぼる”のところへ行って、以前の体験を思い出しながら勇気ある行動に出る“ぼく”の心の
変化が、担任と35名の2年1組の子どもたちの言葉の交流を通してだんだんと浮き彫りにされてい
く授業でした。7月に引き続き指導をお願いした、宇都宮市教委の和田千明指導主事からは、学校教育
全体で行われる道徳教育という視点から、本時の成果と課題について助言と、1年間の研究の総括、価
値づけをしていただきました。子どもたちが本音で語り、自分の思いを本気になって文章につづる姿が
印象的でした。



グリーンサポーターさん、毎週ありがとうございます。
今回は栽培委員会の児童といっしょにパン
ジーの苗を植えてくださいました。春に咲くたくさんの
花が楽しみです。



ゆいのき ミニ

速報版 31

R2.12.10

室田和宏

カリキュラムマネジメント

～来年度の計画づくりに着手しています～

コロナ禍での学校行事ラッシュもひと段落し、2020年の学習のまとめに各学年で取り組む時期となりました。児童と職員のスクラムががっちりとかみ合った成果があがり、今年度のカリキュラムの遅れは、ほぼ取り返すことができます。保護者の皆様のご支援とご協力にも改めて感謝いたします。一方、学校マネジメントアンケートでもご意見をいただきましたが、急ぎ足での学習と行事の狭間で十分に習熟できない苦しみは否定できません。今年の成果を振り返りつつ、丁寧な補いが必要になってまいります。引き続きご協力をお願いいたします。

そしてこの時期、校内では次年度のカリキュラムマネジメントに着手し、計画を練り上げる時期でもあります。会議等を重ねながら「社会に開かれた教育課程」を体現する本校の教育の骨組みを、作り上げていきたいと思います。

運動会につきましては、たくさんの声をお寄せいただき感謝申し上げます。ねぎらいのコメント

からは職員皆大いに元気をいただき、行事に追われる職員室の雰囲気のリフレッシュしてくれました。そして、参考になるご意見もたくさんいただきました。さて、次年度の計画の軸となる運動会については、次のようなことを基本に考えてまいります。

①午前中の実施とする

午前中の時間帯でも、工夫次第で十分達成感のある運動会が実施できると考えました。1年生から6年生が集中を切らずに、最後まで熱中して取り組むことができること。種目を増やすことも時間的に可能であること。給食の提供ができるため、時間にゆとりを持って計画立案できること。お弁当スペースを確保することが不要になること。参観者も持ち物をコンパクトに、子どもたちの活躍する姿を、ゆとりを持って閉会式までじっくりと楽しむことができること。などが主な理由です。

②11月の平日に実施する

秋は熱中症対策の心配がいないこと。平日は給食が提供できるので時間にゆとりを持って計画できること。各種スポーツ団体の行事による欠席児童が生じないこと。などが主な理由です。コロナ禍、不測の事態の計画変更が容易であることから、地域行事との関連も考慮して次年度は平日開催とし、それ以降につきましては、保護者の皆様のご意見なども参考にしながら、次年度以降も検討を続けていきたいと考えています。

「時間制限なしに通してご覧いただき、ともに運動会の感動を味わってほしい！」と願っています。

<お詫び>

前号で紹介した栽培委員会は「緑化委員会」の誤りです。お詫びして訂正させていただきます。

ゆいのき ミニ

カリキュラムマネジメント2

速報版 32

R2.12.14

室田和宏

保護者の皆様にもご協力いただいた、「うつのみやマネジメントシステムアンケート」の集計速報が届きました。詳細な分析等は例年通りホームページ等でお知らせしますが、コロナ禍の中にもかかわらず、保護者の皆様には学校をそして職員を信頼し、支えていただいたことを再確認し感謝の気持ちを新たにしました。記述欄にも貴重なご意見をたくさんいただきました。大いに参考にさせていただき、早速指導に生かすとともに、次年度の計画づくりの参考にしたいと思います。今回、特に顕著だった例をあげますと

- 時と場に応じたあいさつを R1の肯定割合 77.1% → R2 86.5%(保護者)
- いじめ対策の取り組み R1の肯定割合 83.9% → R2 88.0%(保護者)
- 分かる授業ときめ細やかな指導 R1の肯定割合 85.6% → R2 90.4%(保護者)
- ▽ 家庭、地域、企業との連携 R1の肯定割合 94.2% → R2 91.8%(保護者)
- ▽ 小中一貫・地域学校園の取組 R1の肯定割合 96.4% → R2 66.2%(児童)

コロナ禍の下、交流活動は次年度も大きな課題になります。これらの課題に向き合い、全職員で議論を重ねてまいります。個人的には「学校全体に活気があり、明るくいさきとした雰囲気である」の肯定割合が96.8%と高い水準だったことに成果を感じます。さらに活気のある学校を目指して頑張ります。



指導しましょう 「公園など公共の場所の過ごし方」！

「先日公園でゴミ拾いをしている6年生を見ました。素晴らしい行いを是非ほめてあげてください。」

「今年は公園のゴミがとてま少なくなっています。みなさん気を付けているのでしょうか。」

秋ごろにこのようなお話をうかがうことができ、とても喜ばしく感じていました。一方・・・マネジメントアンケートにはこのような意見をいただきました。

「石野森公園にお菓子の袋やペットボトルが落ちていて、少し残念です。いつもキレイだといいなと思います。」また、こんなご意見もありました。

「道路で遊ばないように教育してください。とてもあぶないので、きびしく指導してください。」

学校では先日、縦割り班で校外に出かけ、「まごころ清掃」を実施しました。道路のゴミや公園の植え込みの中の空き缶など、たくさんのゴミが集まりました。放課後の過ごし方についても、今後、繰り返し指導を継続してまいります。

しかし、放課後の生活につきましては、各ご家庭に委ねられています。また、遊びに夢中でついつい気が緩みがちです。この機会に公共の場所での過ごし方について振り返り、是非一度お子様と話し合い、ご指導をお願いいたします。「すべての家庭で必ず指導する。」ことが必要です。城央小の「家庭力」を発揮する時です。



ゆいのき ミニ

速報版 33

R2.12.22

室田和宏

いただいたコメントから

前号に引き続き、「うつのみやマネジメントシステムアンケート」でいただいたコメントを、いくつか取り上げて紹介したいと思います。

その①

コロナ禍の中、行事に追われることが少なくなり、先生と児童がじっくり向き合い絆が深まっている様子がうかがえ、本来の学校教育の原点に戻ったように感じられます。（これまで行事が多すぎたのでしょうか…）この状況下、先生方には色々工夫されて学校生活をより良く楽しく送れていますことを、大変感謝しております。

→「本来の学校教育の原点とは？」今年ほど、この問題について考えたことはなかったかもしれません。絶対に外せないものを厳選し“芯を外さない教育課程”として計画を組むために。その中で私たちも感じていることは「行事が多すぎた・・・」ということです。「できる行事は工夫して実施する」という方針でやってきた今年の経験を生かし、「職員と児童がじっくり向き合える学校づくり」を目指したいと思います。また、コロナ禍で絶対的に足りなかったのは、保護者の皆様に学校の様子を見ていただく機会です。こちらは、次年度のコロナの状況次第と言ったところです。

一方では、

その②

授業のすすみが早く、子どもの理解が充分でないまますすんでいる様子がみうけられます。今の状況で致しかたないと思う反面、校長先生、先生方の焦りが子どもを通して親の私達にひしひしと伝わってきています。

→6月、「焦らないで行事も大切に、こつこつと1日1日を積み重ねよう」と職員に呼びかけていたにもかかわらず、「私自身の焦りが伝わってしまっていた」ことを率直に反省です。2か月のブランクが今後どう影響して来るのか、少し長い目で、注意深く見ていかなければなりませんが、まずは、次学年以降の学習時にも既習事項をしっかりと確認しながら、授業を展開していくことが重要になってくると考えています。



その③

元気よいあいさつの必要性や自分たちからできるよう伝えていただきたいと思います。もちろん家庭でも伝えるべきですが、

→まずは（H30）74.6%→（R1）77.1%→（R2）86.5%と年々ポイントを向上させた子どもたちの成長ぶりを大いにたたえたいと思います。そして、ここから先は、「あいさつ運動」とは違ったアプローチが有効になってくるのかもしれませんが。まずはひとつ、この冬休みの「家庭や地域でのあいさつ」について呼びかけてみたいと思っています。（裏面あり）

続いて、ちょっと方向性を変えて、先生方の「週学習指導案」の中からいくつか振り返りのコメントを紹介します。

まごころ清掃に行きました。歩道には投げ捨てられたタバコや、空き缶、ぼろぼろのレジ袋が落ちていました。ゴミを見つけた低学年児童が、夢中でやぶの中に入っていくと、全身に雑草の種がついてしまい、それを班員みんなにとってあげているほほえましい場面が何度もありました。拾ったごみを誇らしげに見せる低学年児童に、優しく笑って答える高学年児童も、数年前は同じように上級生に面倒を見てもらい、成長してきたのだと思います。縦割り班活動の醍醐味をまた実感する機会となりました。

土曜授業では保護者参観はかなわなかったものの、5年生にむけての修学旅行の発表ができました。昨年度の学習を生かしてスムーズにまとめができたり、聞き手を楽しませるような発表の仕方を工夫したりと、成長を感じることができました。委員会活動では、「学校の笑顔を増やそう」とブロックごとのミニ大会を開催します。集会活動ができない中、新たな取組を生み出していく子どもたちに感心するばかりです。企画委員会の子どもたちの思いが、全校児童に伝わる活動になるよう、指導にあたりたいです。

本年度も残りあと3か月ということに子どもたちと一緒に驚いてしまいました。毎日見ていると、成長の実感があまりないというのが正直なところですが、ノートのまとめ方や、テスト勉強の仕方なども上向いています。これが点数にも表れてくると良いのですが、根気強く見ていきたいです。最近では休み時間に子どもたちと一緒に遊べる時間が取れる時もあるので一生懸命遊びたいです。一人一人とできるだけ関わり、普段は見られない一面をたくさん発見したいと思います。そして今後の行事に向けて、子どもたち同士が同じ方向を見ていけるよう支援していきたいです。

保護者の皆様のご理解とご協力により、本校の教育活動を力強く支えていただいたことに感謝申し上げます。そして皆様が、来る2021年への希望と目標を新たに、コロナ禍ならではのお正月を幸せに迎えられること、心よりご祈念いたします。じっと我慢の冬休みになりそうです。動きを止めて静かにしているからこそ、見えるもの聞こえるものがあるかもしれません。くれぐれもご自愛ください。

“動”の時が来るのをじっと待ちながら。

